

★★★
パフォーマンス
クルーザー
部門

JPK 10.80

JPK 10.80

IRCレーサーで、シングルハンドやダブルハンドなどショートハンド用にも使える。全体に過激さを感じさせない、落ち着いたハルのデザインだ。エアレックスとバルサをコアとしたサンドイッチ構造で、樹脂はビニルエステル。オプションでツインラダーを選択できる。キャビンハウスは前方が狭く、後方が広く、途中でくびれた形状だ。このくびれを利用して、ワークデッキ上に左右方向のジブシートトラバラーを設置している。

ステアリングはティラー仕様。コクピットは、

後端からヘルムスマンとメインセルトリマー用のポジションまでは広大だ。その前方には（日本人なら2人ぐらいいは座れそうな）ベンチが設けられている。このベンチ下の空間を利用して、階下のアフトキャビンのヘッドクリアランスを確保している。ベンチ付近のデッキ上に、プライマリーウインチがある。コンパニオンウェイは背の高いスプレーカバーで覆われ、いかにも外洋向けという雰囲気だ。内装は、白いFRPとホワイトウッドのコンビネーションで、極めて明るい。フランスのJPK Composites社製。



パフォーマンスクルーザー部門では、ほかに Corsair Cruze 970、デヘラー 46、ジャーノ・サンファスト 3600、Mylius 50 がノミネートされた。

★★★
スペシャル
ヨット
部門

アドバンストA44

Advanced A44

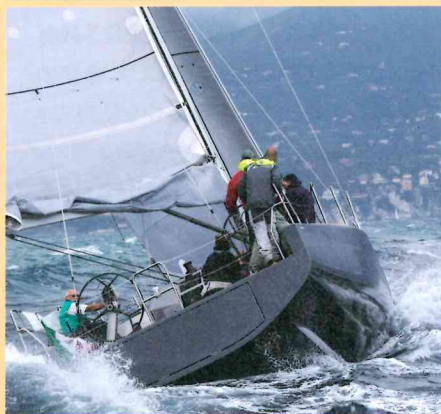
「大型高級デイセラー」というキャッチフレーズが付いている。

ハルデザインは、〈イル・モロ・ディ・ベネチア〉などアメリカスカップボートをデザインした、Roberto Biscontinの作である。ワークデッキもコクピットもすべてチークを張り巡

らして、しかもデッキ形状は極めてシンプル。まるでウォーリーヨットをほうふつさせるような面構えである。長さ／重量比は大きく、セールエリアも大きい。つまり、性能的にもかなり高いところを目指したモデルといえるだろう。内装はシンプルで白く、高級感にもあふれている。

建造はイタリアのAdvanced Yachts社。他に80ft、66ft、60ftを擁している。すべて同じコンセプトによる高級ヨットシリーズである。

スペシャルヨット部門では、ほかに Astus 24、ボゴ3、Pointer 25、サフィアー SE33 がノミネートされた。



★★★
ブルーウォーター・
クルーザー
部門

ボレアル52

Boréal 52

建造はフランスのBoréal SARL社。同社の創業者 Jean-François Delvoye氏のBoréalシリーズに関するコメントを紹介する。「私は、頑丈で、しかも性能の良いボートを造りたかった。オールラウンダーで、航行中も停泊中も快適で、作業性が良く、メンテナンスが楽な、そんなボートが欲しかった。チャートテーブルを擁したドッグハウスは、このサイズでは稀有な存在といえる。速くて、しかも使用や整備に当たってシンプルなボートならば、カウズのハーバーでも、ポリネシアのラグーンでも、大荒れの緯度50度海域でも、あなたの心を穏やかにしてくれるはずである」

6年をかけて、家族と共に世界を一周したDelvoye氏の経験とノウハウがびっしり詰

まった、まさに「ブルーウォーター・クルーザー」の見本のような、アルミ製のチェーン艇である。

最大の特徴は、全方位がワッチ可能なドッグハウス。上部構造物と一体なので、ガッチリとして、しかもドライで暖かい。

その下はデッキサロンで、メインサロンとギャレーとが収まっている。リフティングダガーボードとツインラダーなので、ピーチングも可能だ。

ブルーウォーター・クルーザー部門では、ほかに Rapier 550 by Broadblue、Garcia Exploration 45、オプニ52エボリューション、Southernly 535 がノミネートされた。

